

2024 年度第 2 回入学試験問題

国 語

「始め」の合図があるまでは問題を見てはいけません。

注 意

- 1 「始め」という合図で始め、「やめ」という合図で、すぐに鉛筆をおきなさい。
- 2 問題は 2 ページから 8 ページまでです。
- 3 解答用紙は問題冊子にはさまれています。
- 4 初めに、解答用紙に受験番号・座席番号・氏名を記入しなさい。
- 5 答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 6 字数制限のある問題については、かっこ・句読点も一字と数えなさい。
- 7 文字は楷書^{かいしょ}で、一点一画でいねいに書きなさい。
- 8 質問や用があるときは静かに手をあげなさい。

— 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

演劇部の部長であり演出も担当する宇内瑠美は、演劇部の部員ではない滝上ひかりに脚本の執筆を依頼します。その脚本『姫と人魚姫』は、原作であるアンデルセンの『人魚姫』に大幅な脚色を加えたものとなつています。『姫と人魚姫』では、初めて海上に出た人魚姫が、船上での婚約披露宴に身をおく、美しく孤独な王女マルグレーテに強くひきつけられます。人魚姫は、魔女である祖母から得た、人間の身体を得る薬を携えつつ、毎夜、岸へと泳いでいきます。海辺の小国の王女は、王子との結婚が内陸の大国に海を渡すことでしかないことに苦しみ、海へと身を投げますが、意識を失った王女を人魚姫が救い、「体温」を持つ人間と化して自らの体温で王女の体を温めます。

人魚姫は目を睜^{みは}つた。はじめて目にした空のおそろしいほどの広さも、熱帯魚たちの鱗^{うろこ}を全部奪^{うば}つてきて一身にまとつたような水面のまばゆさも、水底に形成される地形のひとつとばかり思つていた、尖^{とが}つた枝がいくつも突き出た巨大な構造物が水上に浮かんでいることへの驚^{おどろ}きも忘れた。広い世界を見に上つてきたはずだった人魚姫の心は、その構造物——船——の小さな開口部のうちに引き寄せられていた。こんなに美しいものは海の中にはいなかった、と人魚姫は思つた。自分が世間知らずのお姫様などではなく、海という海を知り尽くした冒険家でもあるかのように。

見たことがない、こんなに美しく、こんなに、

水無瀬 どこまで1ト書き?

滝上 言つただろ、小説しか書いたことがないって。

栗林 誰だよ小説家先生を脚本に起用した奴は。

宇内 いいじゃん文学的で、2俺^{おれ}こういうの好き。

栗林 部長は小説家先生に甘い。

水無瀬 文学的な台詞がほしいとか言つてたくせに。

滝上 でも僕の小説はそういうのじゃないんだ。台詞で説明するようなのは無粋だよ。

水無瀬 ト書きで説明する方がよっぽど無粋じゃん。
真砂 でも実際台詞で説明する芝居^{しばい}つてだるいよね。

栗林 それは姫の演技力でなんとか。

水無瀬 ダブル姫の?

栗林 ダブル姫の。

こんなに美しく、こんなに不幸そう、それは人間の王女だ。豪奢^{こうしゃ}に着飾^{きかざ}つた数知れない人間たちに囲まれながら、人魚姫の目にはその姿だけが鮮やかに浮かび上がって見える。星々をつらねたようなドレスにも、彼女は見劣^{みおと}りしないだけの美しさを持っている。いな、星々を浮かべはじめたこの空と海のすべてが彼女のために詭^{あつら}えられた長い長い裳裾^{もすそ}であるかのように、海の上と陸の上と海の下の世界のすべてが彼女をそのうろに容れるためだけに作られた衣装であるかのように、美しい。美しくて孤独だ。

この世界の何も、彼女の悲しみを癒^いさない。

人魚姫は知らないが、この日船上で行われていたのは彼女の婚約披露の宴^{うたげ}である。

栗林 で、この人魚姫では船は難破しないんだ。

滝上 しない。難破したら、許嫁^{いみなずけ}も溺死^{でくし}してもう3ハッピーエンドだよ。

〔略〕

滝上 ただ難破のイメージというか、人魚姫の想像の中で船が難破するシーンがあつてもいいかなと思うんだけど、演劇つてそういうのできる?

最初は現実^{じつじ}に起きたことに見えて、後からこれは人魚姫の想像なんだとわかる感じにしたい。

水無瀬 無茶^{むちゃ}言うよ先生。

宇内 できるよ。

真砂 部長、安請^{やすう}け合いすんな。

栗林 部長は先生にべた惚^ぼれだから。

滝上 人魚姫と王女が見つめ合つて立ってるんだ。多分、舞台の端と端とかに分かれてるのかな。「略」他に誰もいなくなつて、二人の間に青い海

だけが広がって、二人は見つめ合ったまんま。でも実際にはそうはならないんだよね。人魚姫がそう願ってるだけ。船客も許嫁もいなくなってる。世界に自分と王女二人つきりだったらなって。夢見てるだけ。「略」

水無瀬 でもこれ小説じゃなくて演劇だからなあ。

宇内 まあまあ、言葉は役者がイメージを広げるのにも役立つから。

栗林 部長はこれだからな。

水無瀬 みんなやりたい役ある？

栗林 魔女気になるな。

水無瀬 うちは王女かな。真砂は？

(真砂、顔を上げて)

真砂 4私、人魚姫やりたい。

(暗転)

ほとんど女子ばかりのこの演劇部に、女性の役を演りたがる部員はかえって少ない。水無瀬はその中では珍しく、ヒロイン役の常連である。舞台上の彼女に憧れを寄せるファンたちは皆、分厚い眼鏡をかけて髪をきつく束ね、眉根に皺を寄せて早口でぶつぶつ言っている普段の姿に幻滅すると言われている。

「どうって、好きなんですよ」

ミア役の真砂が答えると、水無瀬はわかってないなあと言いたげな顔をして、

「何で好きになるのかがまず謎なんだよ」

と言いながら丸めた台本で机を軽く叩いた。

「船の上にいるのを海から一目見ただけじゃん。喋ってもない。それで、故郷も捨てて家族も捨てて、本当の自分を捨ててまで会いに行く？」

「ていうか、ミアの気持ちは水無瀬の役作りには関係なくない？」

「あるよ。ミアがどういう気持ちでもマルグレーテに持つてのかわからないと、マルグレーテとしてもミアにどう接したらいいのかわからない」

「理論派なんだよなあ、水無瀬は」と、魔女役の栗林。

「うだ」

と真砂は横で聞いていた部長を引き込んで、

「演出家的にはどう思うの？ その解釈」

と問いをパスした。

「そこって、どこ？」

「ミアの一目惚れについて」

「水無瀬は、一目惚れなんかないって立場？」

「ないってどうか、わからん。顔で好きになったってこと？ 一目見ただけじゃ相手のことなんか何もわからないわけじゃん。それでそんな好きになる？」

容姿で憧れを持たれることの多い水無瀬の言葉にはたしかに説得力がある。

「一目惚れ、わかる気がするけどなあ、俺は」

宇内は何かを思い出そうとするようなゆっくりとした口調で水無瀬の早口を受け止める。

「相手のことがわかってるから好きになるわけじゃないんじゃないの？ むしろ、わからなくて、わかりたいと思うのが、好きっていうことなんじゃないかなあ」

「ははあ」

横から栗林が意味深長に目配せをしてみせると、その場の皆にも、宇内の滝上に対する気持ち茶化しているのだとわかって、宇内は見るからに赤くなり、口籠った。

「他人ってわかんないもんじゃん。部長はたいいていの人間のことは理解したつもりでいるってこと？」

水無瀬は空気を無視して更に切り込む。「略」

数年前に共学化した元女子校で、今でも男子の入学者が少ない高校を、

真砂は進学先に選んだ。女子の集団に溶け込めると思ったわけではないけど、男子の集団に問答無用で帰属させられるのだけは嫌だった。

演劇部に誘われたのは、数少ない男子だからという理由もあったのだろうと、真砂は後になって思い当たった。

しかし実際に「男」としての役割を求められることはほとんどなかった。女子部員の多くは、むしろ男性の役を演じたがった。自分と異なるものを演じることこそ演劇の華だと思っているのか、あるいは舞台上でのみ現すことができる男の姿をこそ自身の真の姿と見なしているのか。

新入生全員が役者を務める夏の公演で、真砂は男性の役を演ると思われていたのだが、男性役の志望者が多いからという理由で、女性の役に移ることを申し出た。

その時まで、女性として生きるという選択肢が、現実的なものとして浮かんたことはなかった。それは空を飛べるようになるといったたぐいの夢想と変わらなかった。

舞台の上で自分ではない人間を演じることによる解放感というだけの話かもしれないとはじめは思った。しかし演劇部の中で、「冗談半分に「女の子」として扱われるようになる」と、気持ちが楽になるのを感じた。「略」

——あさくら、女子の制服いる？

と演劇部の先輩に言われたのが転機になった。——この春卒業したうちのお姉ちゃんのお下がりがあるんだけど、あさくらなら余裕で入るんじゃない？

女子の制服で学校に通いたい、と打ち明けると、両親はあっさりと受け容れた。「略」

5「真砂」という新しい名前を彼女は自分につけた。

病院に通い、二次性徴をしばしの間止める治療を受け、彼女は女性として生き始めた。「略」

王女は波間に浮かぶ顔に向かって微笑んだ。おのれの、海の、どちらでもある顔。なぜならおのれは海とひとつになるのだから。迎えに来てくれたのだ、と王女は思った。頼りない小舟の上に王女は立ち上がり、權を手放した。權は藍色の中に沈んで、瞬く間に見えなくなった。まるでじ

めからまぼろしでしかなかったかのように。そして、權の後を追うように、王女は水中に身を翻した。「略」

見下ろすと、碧い水と月の光が混ざり合う、汽水域に似た領域を、王女がいつしんに沈んでいく。身に纏った衣がいそぎんちやくのように開き、唇から小さな真珠に似た泡が立ち上る。人間が沈んでいくところを、人魚姫ははじめて目にした。沈むということのない人魚には、おどろくほどの速さだった。泡が上っていくのと引き換えに、からだは落ちていくように思えた。

人魚姫は王女を追って海に潜った。水の中で、王女からだは今までになく自由に見えだし、あの哀しみの気配からも解き放たれているように見えた。人魚姫ははじめて間近に王女の顔を見て、このまま、このまま一緒に海の底の宮殿へ行くことができたなら、と願った。「略」

それからその思いを振り払い、王女を抱いて水面に顔を出した。

「ごめん、来週の教室取れてなかった」

朝の教室に飛び込んでくるなり、宇内がそう言った。「略」

多目的室のような特別教室が他の部に取られてしまったときは、比較的空きのある通常教室で申請し直すしかない。「略」そういうときは、人海戦術、とまではいかずとも、部員をかき集めてできるだけ多くの申請を出す。

「三人ほど、学生証持ってきてくれる？」

真砂は周囲を軽く見回す。この時間に来ている部員は少ない。ほか数人の部員とともに、真砂は学生証の入ったパスケースを持って立ち上がった。生徒会室に置いてあるファイルを開いて、教室の空き状況を調べ、備え付けの申請用紙を埋める。申請者の名前と学生証番号まで記入して、学生証を添えて窓口に出す。

真砂の番になったとき、申請書と学生証をチェックしていた一年生らしき役員の、スムーズな作業が停滞する。申請書の「朝倉真砂」という名前と、学生証の「朝倉正雄」という名前、それに真砂の顔を見比べて、いったんフリーズした後、奥に引っ込んでいく。

「ああ、朝倉さんは大丈夫」奥から三年生の声が洩れ聞こえる。「そのま

ま通してあげて」〔略〕

大理石の階段の上に王女を横たえ、人魚姫はじつとその顔を見下ろした。意識を失っているときだけは、哀しみの気配を漂わせていないその顔。大理石に彫られたように静かなその顔。触れると、大理石のように冷たく、人魚姫と同じくらい冷たかった。〔略〕

王女をあたためる手段はひとつしか思い浮かばなかった。

6 このひとは、私に会いに来てくれたのだ、と人魚姫は思った。私に会いに来ようとしたばかりにこんなことになってしまったのだ。私の方から、このひとのそばに行くしかないのだ。

人魚姫は首から提げた薬壺を握むと、蓋を開け——中身を一気に飲み干した。

そして、王女の上に倒れ込んだ。

〔川野芽生「Blue」『すばる』2023年8月号〔集英社〕より〕

主要登場人物

朝倉真砂 ミア役。「私」と自称。

水無瀬樹 マルグレート役。

栗林夏穂 魔女役。

宇内瑠美 裏方全般を経て演出も担当。演劇部の部長。「俺」と自称。

滝上ひかり 演劇部の部員ではない。宇内の依頼で脚本を担当。「僕」と自称。

問1 傍線部1「ト書き」とは、「脚本の中で、場面の状況・音響・照明などの指定を台詞の間に書き入れたもの」のことです。本文中には「ト書き」の形式を利用した表現が複数ありますが、そのうち十字のものを書き抜きなさい。ただし、滝上の書いた脚本部分は除きます。

問2 傍線部2「俺こういうの好き」とありますが、宇内の滝上に対する気持ちや態度に明白に表れている一文を本文中から探し、その最初の五字を書き抜きなさい。

問3 傍線部3「ハッピーエンド」とは、どういうことですか。その説明

として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 人魚姫が人間へと変身したために海で命を失ってしまうということ。

イ 王女が自ら海に身を投じることで海辺の小国の平和がつづくこと。

ウ 王女がいなくなつて人魚姫は海の中にとどまるということ。

エ 王子が死亡して政略結婚が回避されるということ。

オ 王子を殺害する場面が不要になるということ。

問4 傍線部4「私、人魚姫やりたい」とありますが、真砂は自分自身とミアとの間に共通点を見出したと考えられます。両者の共通点について、説明しなさい。答が解答欄からはみ出さないように注意すること。

問5 傍線部5「真砂」という新しい名前を彼女は自分につけた」とありますが、なぜそのようにしたのですか。解答欄に合うよう、本文中から最もふさわしい部分を八字で書き抜きなさい。

「 八字 」ことを周囲にも表明するため。

問6 傍線部6「このひとは、私に会いに来てくれたのだ、と人魚姫は思った」とありますが、どういうことですか。その説明としてふさわしいものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 正式の招待が王宮からあったということ。

イ 王女が人魚の子孫であると確信したということ。

ウ 王女に近づきたがっていたのは自分なのだということ。

エ 運命だと感じていたものが、確かな現実に変つたということ。

オ 待ち望んでいた、王女を助ける好機がいに訪れたということ。

カ 王女の側も自分に好意を持っていたのだと、理解したということ。

問7 本文の内容と合っていないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 滝上ひかりは、作品中の状況を台詞で説明することをよしとしていない。

イ 水無瀬樹は、ファンたちから男役としての容姿に憧れをもたれている。
ウ 栗林夏穂は、ことあるごとに部長である宇内瑠美をからかっている。
エ 王女マルグレーテは、最後まで海とともにありたいと願っている。
オ 人魚姫ミアは、意識を失った王女の体を温める方法を知っていた。

二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

現代思想を学ぶと、複雑なことを**1単純化**しないで考えられるようになります。単純化できない現実の難しさを、以前より「高い解像度」で捉えられるようになるでしょう。

——と言うと、「いや、複雑なことを単純化できるのが知性なんじゃないのか？」とツツコミが入るかもしれません。ですが、それに対しては、「世の中には、単純化したら台無しになってしまうリアリティがあり、それを尊重する必要がある」という価値観あるいは**aリンリ**を、まず提示しておきたいと思います。そう聞いて、「ふむふむ、そうだよな」と思ってくださいるならいいのですが、「なんじゃそれは」とイラつく人もいるかもしれない。ともかく読み進めてみて、役に立つものかどうか判断いただければ幸いです。

もう少し、この冒頭で、今なぜ現代思想なのかを説明させてください。

大きく言って、現代では「きちんとする」方向へといろんな改革が進んでいます。これは僕の意見ですが、それによって生活がより窮屈になっていると感じます。

きちんとする、ちゃんとしなければならぬ。すなわち、秩序化です。秩序から外れるもの、だらしのないもの、逸脱を取り締まって、ルール通りにキレイに社会が動くようにしたい。企業では「**進**コンプライアンス」を意識するようになりました。のみならず、我々は個人の生活においても、広い意味でコンプライアンス的な意識を持つようになつたというか、何かと文句を言われぬようにビクビクする生き方になってきていないでしょ

うか。今よりも「雑」だった時代の習慣を切り捨てる必要がある面もあるでしょう。しかし改革の刃は、自分たちを傷つけることにもなっていないでしょうか。

こうした現代の捉え方を、ここではごく大ざっぱに言うだけにします。じゃあ具体的にどういふ問題があるかと例を挙げると、その例だけに注目して拒絶され——「それをきちんとするべきなのは当然だ」と問答無用の反発を受けて——、話を聞いてもらえないかもしれないからです。

ですから時代の大きな傾向として言えます。現代は、いっそうの秩序化、クリーン化に向かっていて、そのときに、必ずしもルールに収まらないケース、ルールの境界線が問題となるような難しいケースが無視されること、がしばしばである、と僕は考えています。何か問題が起きたときに再発防止策を立てるような場合、その問題の例外性や複雑さは無視され、一律に規制を増やす方向に行くのが常です。それが単純化なのです。世界の細かな凹凸が、ブルドーザーで**b均**されてしまうのです。

物事をちゃんとしようという「良かれ」の意志は、個別具体的なものから目を逸らす方向に動いてはいないでしょうか。

そこで、現代思想なのです。

現代思想は、秩序を強化する動きへの警戒心を持ち、秩序からズレるもの、すなわち「差異」に注目する。それが今、人生の多様性を守るために必要だと思ふのです。

人間は歴史的に、社会および自分自身を秩序化し、ノイズを排除して、純粹で正しいものを目指していくという道を歩んできました。そのなかで、**二〇世紀の思想の特徴は、排除される余計なものをクリエイティブなものとして肯定したこと**です。

第四章で説明しますが、遡ると、その原点は一九世紀のニーチェの哲学にあります。ニーチェは『悲劇の誕生』において、「ディオニソス的なもの」といふ言い方で、荒ぶる逸脱のエネルギーをクリエイティブなものとして肯定しました。

逸脱にクリエイティブなものが宿るといふ考え方は、二〇世紀を通してポピュラーになりました。芸術家にはハチャメチャなところがある、みたいなイメージですね(それも「昭和的」になり、今では品行方正な人が好

まれるのかもしれませんが。

予定を超えて朝まで飲んでしまおうとか、突然「今から海に行くか」となつてレンタカーでドライブに出かけてしまおうとか、そのくらいなら日常起こりうる軽い逸脱で、青春映画みたいな爽やかさです。「勢い」ですね。その一方で、最も極端には、犯罪という逸脱がある。では、激しい社会運動で、法的にギリギリであるような行動などはどうなのか。法の隙をつくA狡猾なビジネスはどうなのか。逸脱には実にさまざまな様態があります。考えてみてほしいのですが、ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害は法によってCスイコウされたのであり、抵抗するには違法行為に逸脱が必要だったのです。

そもそも、ルールに則っている状態とはどういうことなのか。法的にセーフかアウトかというのは解釈が必要で、だから法曹の仕事があるのであつて、ボタンを押したら答えが出るものではありません。ここには、ソール・クリプキというアメリカの哲学者が考えた「規則のパラドックス」という有名な問題が潜んでいます。詳しく知りたい方は、飯田隆『規則と意味のパラドックス』（ちくま学芸文庫）を読んでみてください。

僕は一九七八年生まれで、九〇年代から二〇〇〇年代にかけて精神形成をした人間なので、二〇世紀的なものをずっと背負っているのですが、デジタル・ネイティブの世代からすると、2逸脱をポジティブに考えるというのとは違和感があるかもしれません。

有名な「盗んだバイクで走り出す」という歌詞がありますが、あれはかつて、がんじがらめの社会秩序の「外」に出ていくという解放的なイメージで捉えられていました。ところが今日では、「他人に迷惑をかけるなんてありえない」という捉え方がけっこう本気で言われているようです。そういう解釈は当初は冗談だったのですが。

3今日では、秩序維持、安心・安全の確保が主な関心になっていて、以前のように「外」に向かつていく運動がそう単純には言祝がれなくなっています。

そういう状況に対して僕は、さまざまな管理を強化していくことで、誰も傷つかず、安心・安全に暮らせるというのが本当にBユートピアなのかという疑いを持ってもらいたいと思っています。というのも、それは戦時

中のファシズムに似ているからです。

僕は祖父母が戦争を経験しているので、皆が一丸となってひとつの方向を向くことへの警戒心をギリギリ教えられてきた世代です。そういう昭和の記憶があるからこそ、一人の人間が逃げ延びられる可能性がaリソリ的につねに擁護されるべきだと考えるのです。犯罪の抑止は必要だとしても、過剰な管理社会が広がることへの警戒は言わねばならないし、現代思想はまさにその点に関わっており、人が自由に生きることの困難について語っている思想だと思ふのです。

秩序をつくる思想はそれはそれで必要です。しかし他方で、秩序から逃れる思想も必要だというダブルシステムで考えてもらいたいです。

たとえば机の上がめちやくちやだったら気分が悪いわけで、整理整頓したい。ところが、知人のアーティストから聞いた話ですが、机の上がキツチリ整理整頓されすぎていると、絵が「硬く」なってしまう。なので、むしろいい加減にしているのだと。この感覚は僕にもわかります。人間が人工的につくり出す秩序ではない、何かもつと有機的なノイズみたいなものがないと、思考が硬直化してしまいます。

4僕は机の上に植物を置いています。植物は自然の秩序ですが、同時に、人間の言語的な秩序からは逃れる外部を示している。植物は思い通りに管理できません。勝手な方向に延び、増殖もする。そういう「他者」としての植物にときどき目をやると、物事を言葉でがんじがらめにしようとしてしまう傾向に風穴を空けるような効果があります。

動物を飼うのもそうです。他者が自分の管理欲望を攪乱することに、むしろ人は安らぎを見出す。ここが逆説的なのです。すべてを管理しようとするほど、わずかな逸脱可能性が気になって不安に駆られるのです。むしろ秩序の攪乱を拒否しないことで不安は鎮まっています。だから人は恋愛をしたり、結婚したりもするのです。それは秩序をつくるためというより、攪乱要因とともに生きていくことが必要だからでしょう。

(千葉雅也『現代思想入門』「講談社」より)

(注) コンプライアンス：企業が法律や規範を守ること。

問1 傍線部 a・c のカタカナを漢字に直しなさい。また、傍線部 b の読みをひらがなで記しなさい。

問2 傍線部 A 「狡猾な」・B 「ユートピア」の意味として最もふさわしいものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 狡猾な

ア 難解な イ 綿密な ウ あきれた

エ 卑怯な オ 悪賢い

B ユートピア

ア 架空の世界 イ 理想の世界 ウ 魔法の世界

エ 幸福な世界 オ 完全な世界

問3 傍線部 1 「単純化」とありますが、「単純化」した行動の例として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 他人から文句を言われることを過剰に恐れ、ビクビクと生きる。

イ 企業の経営のために、コンプライアンスの行き過ぎを抑える。

ウ 相手の主張全体を、ある具体例だけに注目して拒絶する。

エ 問題への再発防止策を立てることを怠り、同じ失敗を繰り返す。

オ 簡単ではあるが、様々なケースに対応したルールを作り上げる。

問4 傍線部 2 「逸脱をポジティブに考える」とありますが、どういうことですか。その具体例として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ナチス・ドイツによるユダヤ人迫害という悪行すらも、合法であることとを理由に許容すること。

イ 芸術家にはハチャメチャなところがあるという一見正しい主張を、昭

和的であるとして排除すること。

ウ 盗んだバイクで走り出すことの迷惑性は理解しつつも、その解放的なイメージに憧れを持つこと。

エ 押せば合法性の判断ができるボタンは、法曹の仕事を奪うとはいえず、公平な判決を下せること。

オ 戦時中のファシズムについて、戦争という観点から否定しつつも、その一体感を好むこと。

問5 傍線部 3 「今日」の状況に対して、筆者はどうすべきだと考えていますか。それを述べた次の文の空欄に最もふさわしいことばを、本文中から十七字で書き抜きなさい。

「 十七字 」心を抱くべきだと考えている。

問6 傍線部 4 「僕は机の上に植物を置いています」とありますが、それはなぜですか。「僕」の状態と「植物」の働きにそれぞれ触れつつ、四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問7 本文の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間の歴史が「きちんとする」方向へと進んでいく中で、二〇世紀はそれとは反対の思想が力を持った時代であった。

イ 現実世界の具体的な問題を個別に尊重した結果、私たちの生活はクリンではあるが、窮屈になってしまった。

ウ 「現代思想」は秩序ある世界を必要とする一方で、「差異」に注目して多様な人生の在り方を提案する。

エ 現代は、法や規則によってだらしないものを取り締まろうとするあまり、安心・安全がないがしろにされている。

オ 人が自由に生きることの困難は、皆が同じ方向を向いていないという現代の課題によって引き起こされている。

